

V 男女平等参画を推進する社会づくり

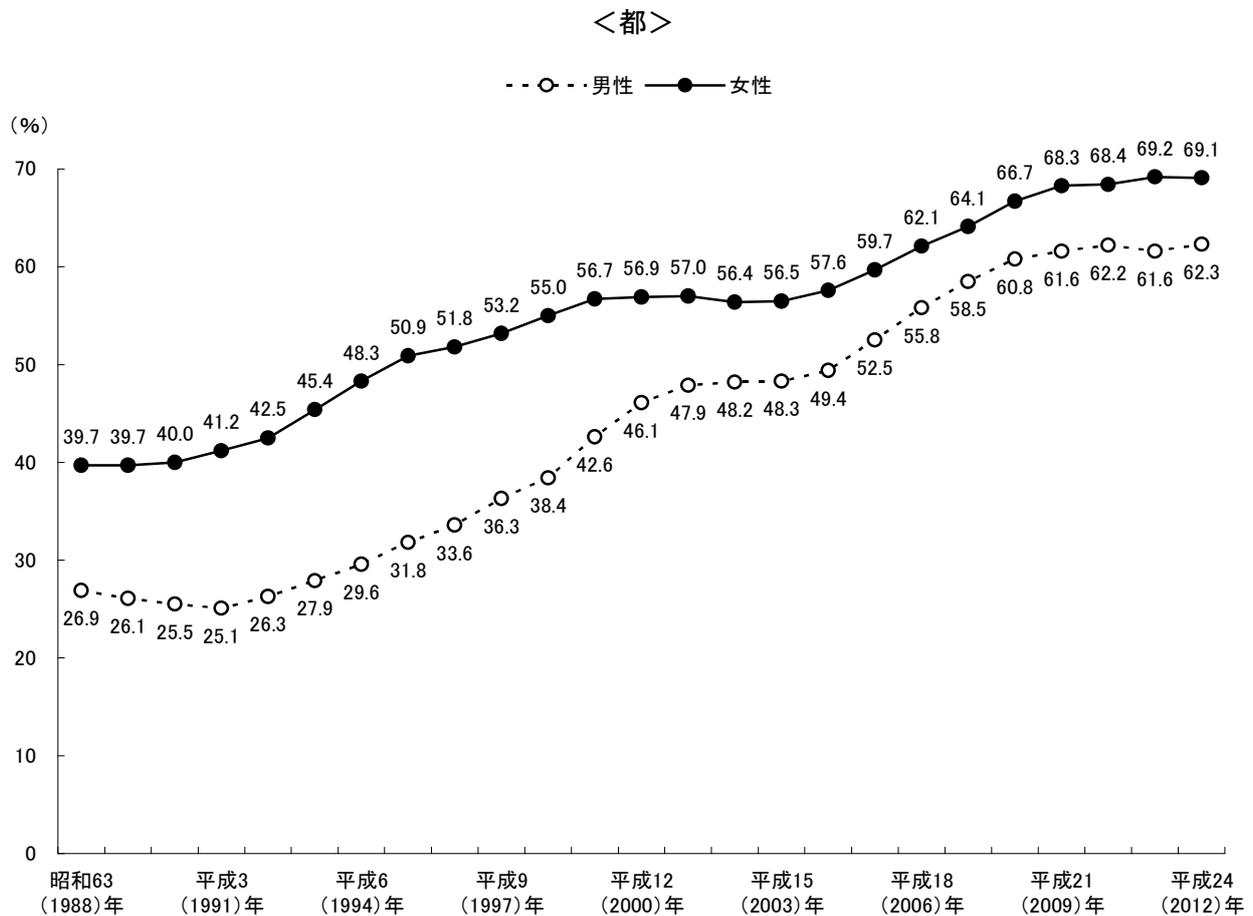
(1) 教育・学習の充実

V-1 教育・学習

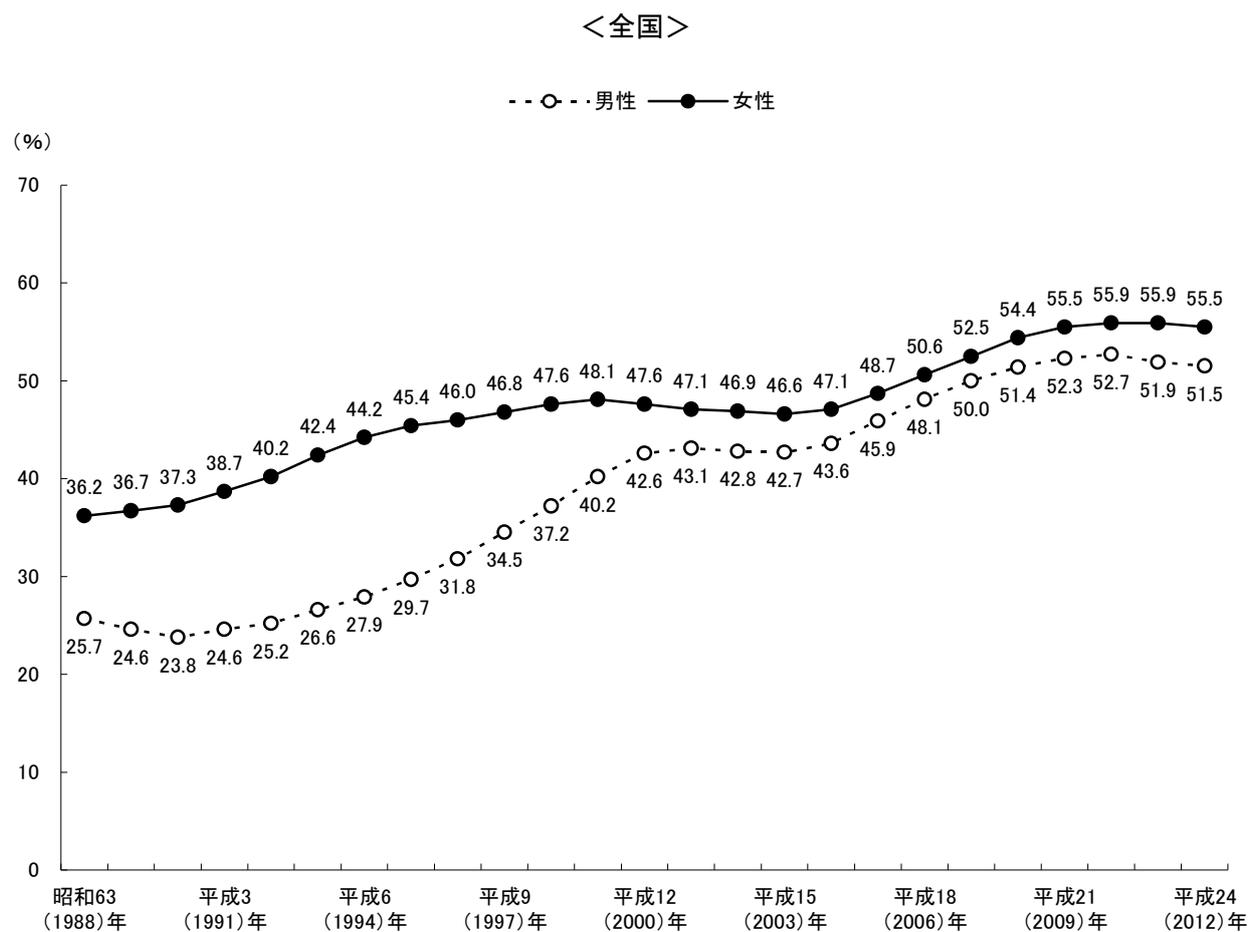
1. 大学進学率

都・全国ともに女性の大学・短期大学への進学率は、一貫して男性の進学率を上回っている。都では、男性は平成3(1991)年以降増加傾向となり、平成24(2012)年には62.3%となっている。女性はほぼ一貫して増加傾向にあり、平成24(2012)年には69.1%となっている。全国も都と同様の傾向にあり、平成24(2012)年は男性が51.5%、女性が55.5%である。

図表V-1-1 大学(学部)・短期大学(本科)への進学率(過年度高卒者を含む)の推移(都・全国)



## V 男女平等参画を推進する社会づくり



注：大学（学部）・短期大学（本科）への進学率（過年度高卒者を含む）とは、大学学部・短期大学本科入学者数（過年度卒業生を含む）を3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数で除した比率

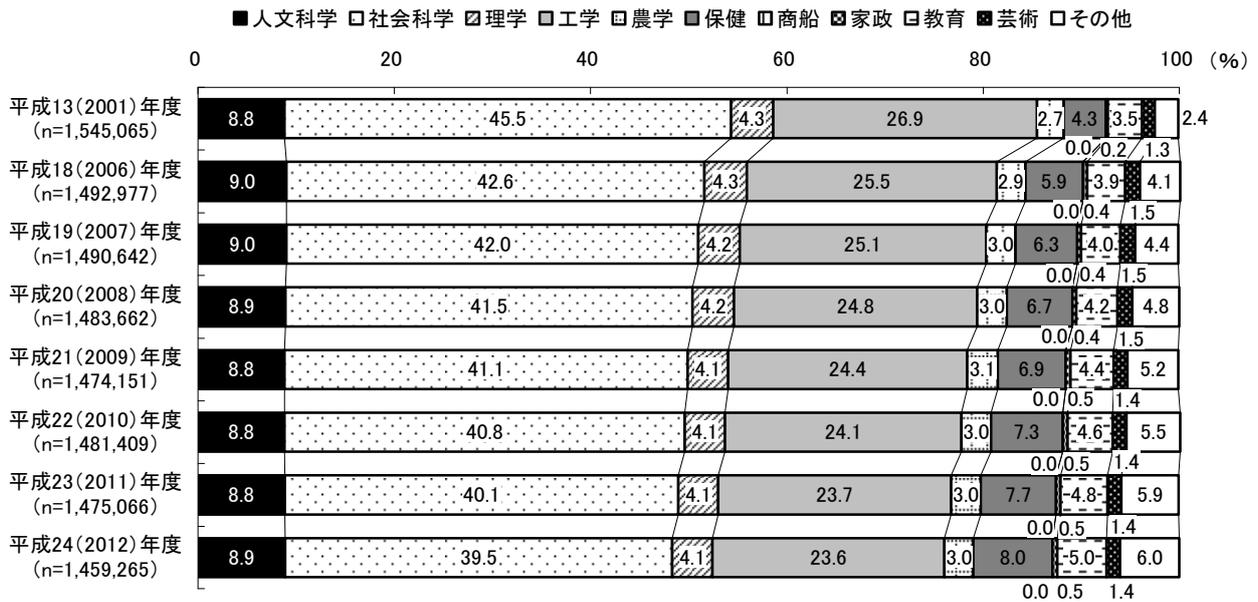
資料：文部科学省「学校基本調査」

2. 大学生の学部別構成

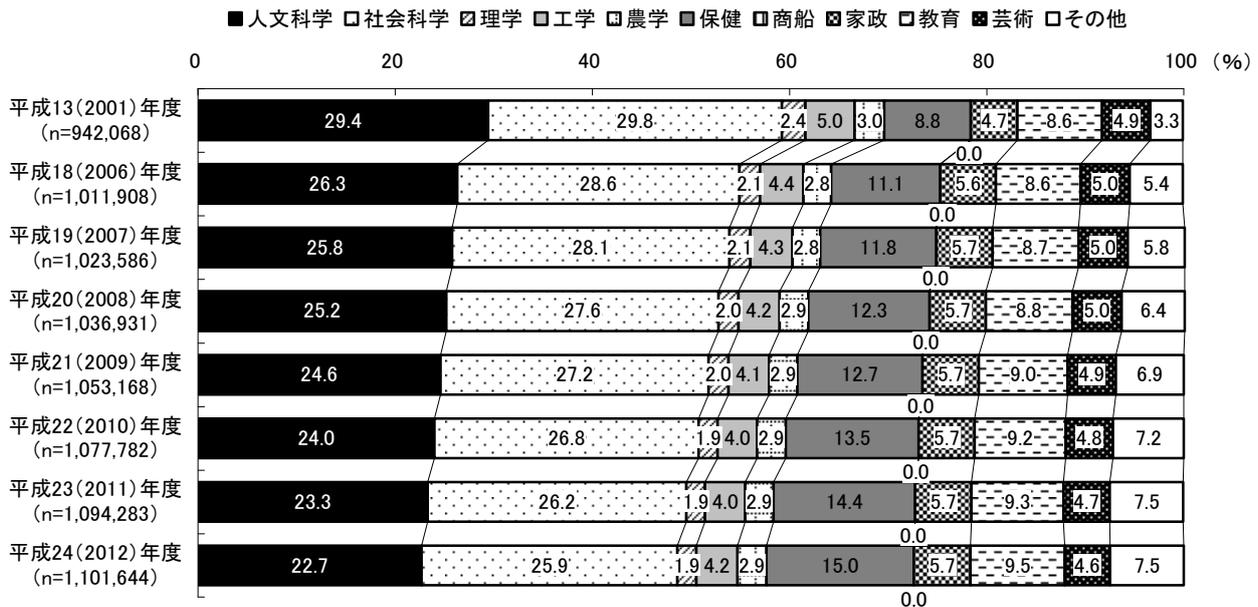
大学生の学部別構成比の推移をみると、男子学生では社会科学・工学が減少傾向にあり、保健・教育が増加傾向にある。平成24(2012)年度には、社会科学39.5%、工学23.6%、人文科学8.9%となっている。女子学生では人文科学・社会科学が減少傾向にあり、保健が増加傾向にある。平成24(2012)年度には、社会科学25.9%、人文科学22.7%、保健15.0%となっている。

図表V-1-2 大学生の学部別構成比の推移(全国)

<男子学生>



<女子学生>



注：各年度5月1日現在

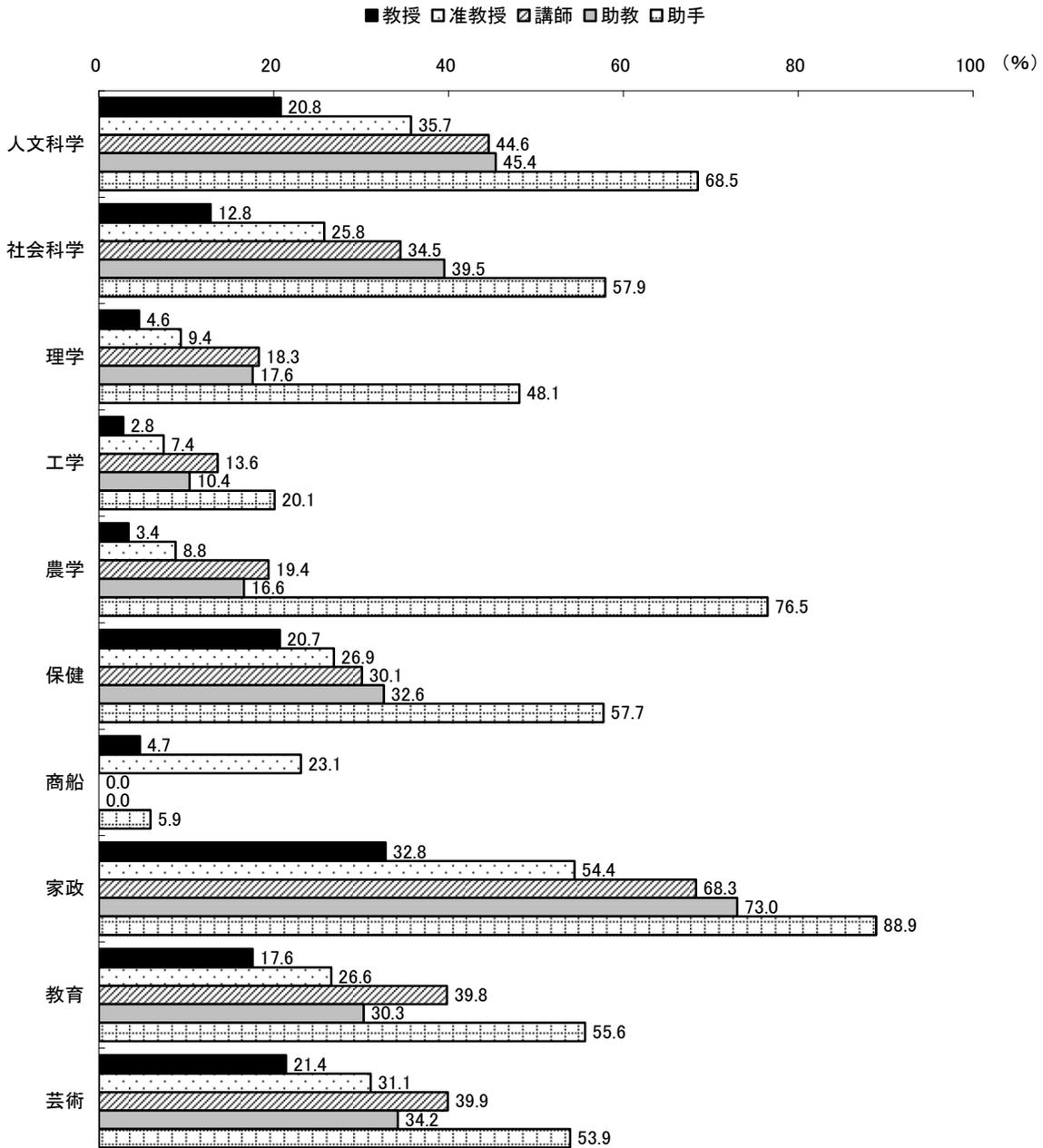
資料：文部科学省「学校基本調査」

## V 男女平等参画を推進する社会づくり

### 3. 大学教員における分野別女性の割合

大学教員における女性の割合を分野別にみると、家政分野では比較的高いが、理学や工学、農学の分野では助手を除き非常に低くなっている。助手については多くの分野で50%を超えているものの、教授については家政分野を除き30%に達していない。

図表V-1-3 大学教員における分野別女性の割合（全国）



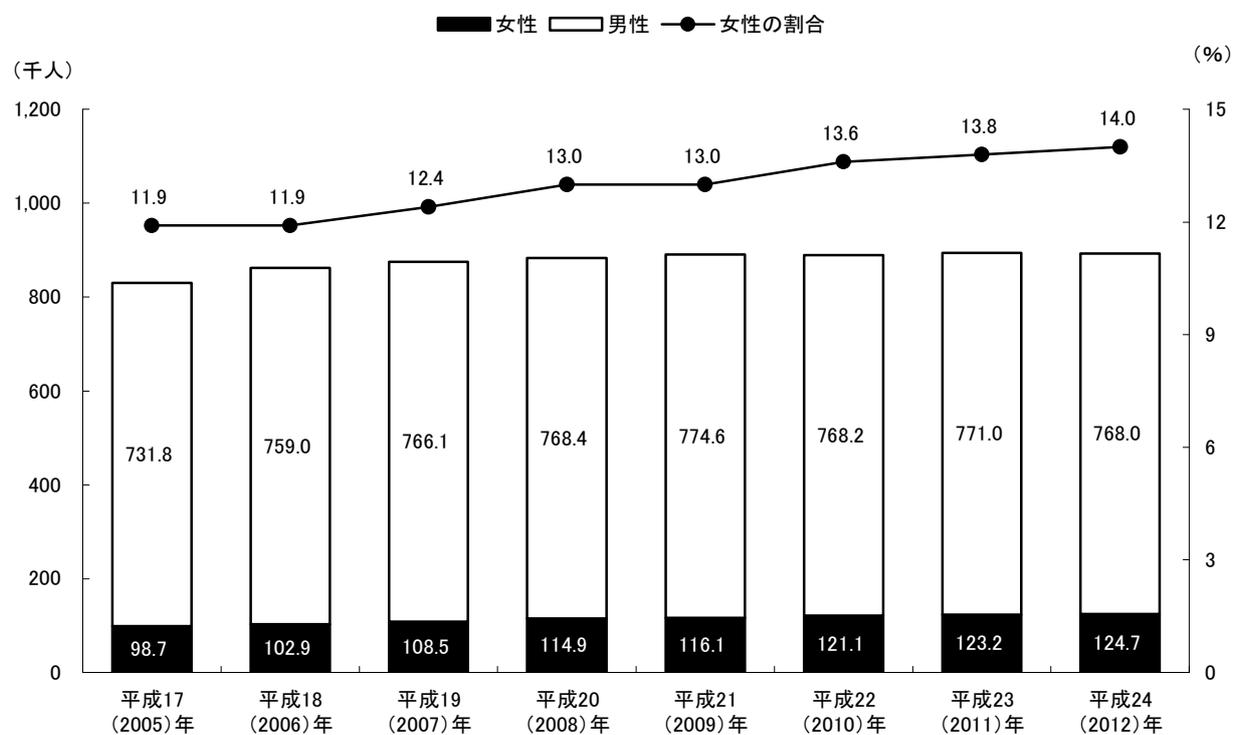
注：文部科学省「学校基本調査」（平成23年度）より内閣府作成

資料：内閣府「平成24年版男女共同参画白書」

4. 研究者に占める女性の割合

研究者に占める女性の割合は増加傾向にあり、平成24（2012）年には14.0%となっている。

図表V-1-4 研究者に占める女性の割合の推移（全国）



注1：企業等、非営利団体・公的機関、大学等における研究関係従業者数（実数）のうち研究者の数。研究者とは大学（短期大学を除く。）の課程を修了した者（またはこれと同等以上の専門的知識を有する者）で、特定の研究テーマを持って研究を行っている者をいう。

注2：各年3月31日現在

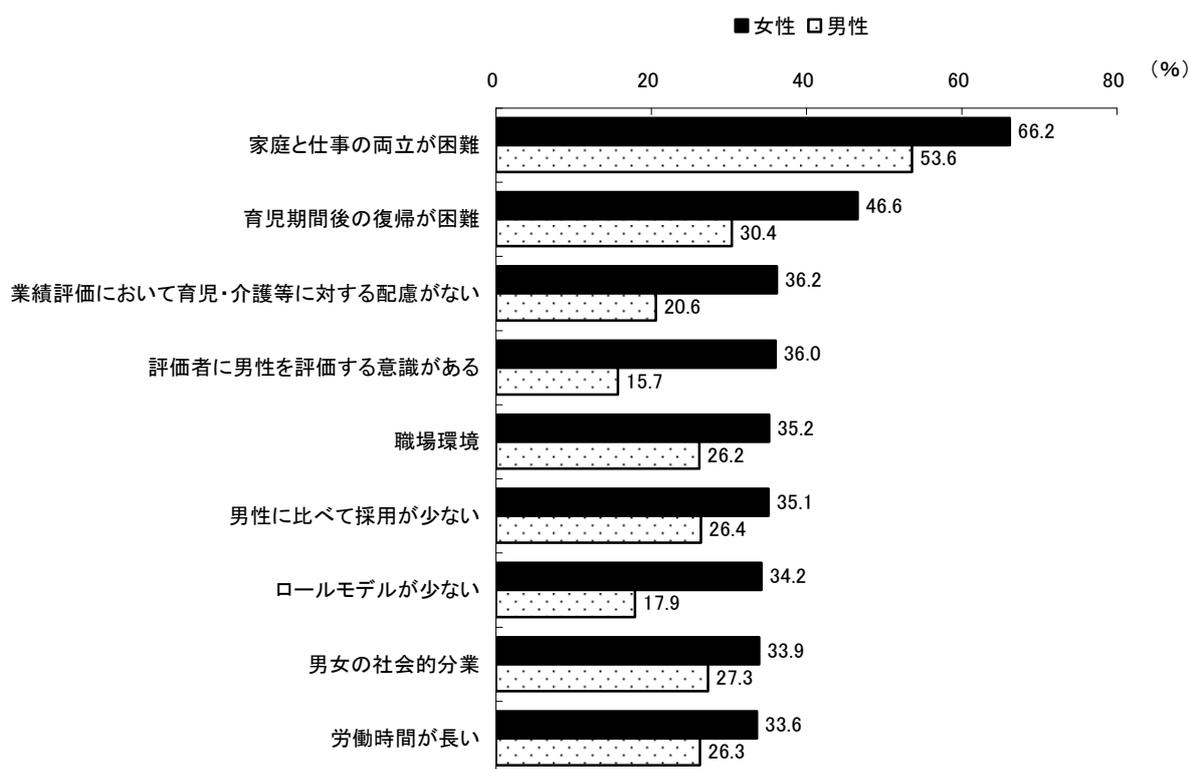
資料：総務省「科学技術研究調査報告」

## V 男女平等参画を推進する社会づくり

### 5. 女性研究者が少ない理由

女性研究者が少ない理由としては、「家庭と仕事の両立が困難」「育児期間後の復帰が困難」などが多く、労働環境や仕事と家庭との両立支援体制の整備が求められている。

図表V-1-5 女性研究者が少ない理由（全国）



注1：男女共同参画学協会連絡会「科学技術専門職における男女共同参画実態の大規模調査」（平成20年）より作成

注2：女性の上位の項目のみを表示

資料：内閣府「平成23年版男女共同参画白書」